

若杉実の裏口音学

表が裏で、裏が表！

裏口音学

77

若杉 実: 実利出身の音楽ジャーナリスト。雑誌への寄稿、連載をはじめCDのライナーノーツを執筆。CD、DVD企画も200タイトル以上手がける。RADIO-i(愛知国際放送)、Shibuya-FMなどラジオのパーソナリティも担当していた。著書に「渋谷系」「東京レコ屋ヒストリー」「裏ブルーノート」「裏口音学」、新刊「ダンスの時代」。

ご意見などはブログ&メールまで。
<http://wakasugim.jugem.jp/>
wakasuginoru@hotmail.com

新説! 筒美京平



BRENDA HOLLOWAY
 「Play It Cool, Stay In School」
 (Tamla Motown)

「こんなの買ったかな?」。実家の荷物を整理していたら一枚のドーナツ盤(下枠)を見つけ手が止まった。写真の女性を凝視するうちに、モノクロ写真に色がつくように記憶がよみがえる。親に手を引かれオープンして間もないキンカ堂に行き、屋上広場で催されていた朝倉理恵のキャンペーンで買ってもらった一枚。都のお姉さんが目のまえでうたったことに興をさかしたのか。サイン色紙といっしょに直接手渡されたとき、まだ幼稚園児だったわたしの心臓は破裂しそうなくらいドキドキしていた。

「どんな曲かな?」。ほぼ半世紀ぶりに耳にした歌は、美化された思い出を一瞬にしてセピア色にもどすようなものだったけど、作者に目を転じるなり「あ〜」とため息ひとつ漏らす。先日(10月7日)お亡くなりになられた筒美京平(享年80)だった。

作曲家デビュー10年めの1973年、まさに脂が

のっていた時代の作品。以降、昭和から平成にかけてあらゆる歌手を手がけるなか、とうぜん波もあっただろう。ようするに“やっつけ”だが、そういう泥縄の一枚として、再評価機運が高まる現在ですら脚光を浴びそうにない。

それでも私的な記念碑。じぶんなりにたのしむことを前提に、筒美作品としての作法をもって聴けばいい。その作法とは、曲の引用元を探すということ。今回ののはわからなかったが、はやい話なにをパクったのか。

筒美を“京平先生”と私淑するひとはわたしの周りにもたくさんいるが、その理由の多くが「引用がマニアック」というもの。“マニアック”であることが“先生”と呼ばれる条件になることへの一定の理解はできる。

たとえば今夏監修した「Jazz Side Of Motown」(10月号掲載)での作業中、自慢したくなるような大発見をした。同社の音源をしらみ潰しにあたるなか、看板歌姫ブレンダ・ハロウェイの「Play It Cool, Stay In School」(1966年)が流れてきた瞬間、反射的に「お魚くわえたドラ猫♪」とリズムに合わせ口ずさんでいたのである。

筒美作品で知られるサザエさんの曲といえば、

1910フルーツガム・カンパニー(US)の「Bubble Gum World」(1968年)を下地にしていることで有名な(第1回掲載)、それは終曲であって、主題歌のほうは話題にさえならない。というより“元ネタなし”というコンセンサスがあったようにおもえる。

しかし話がこれで終わらないところに、筒美を筒美たらしめるマニアぶりが隠されていた。ブレンダの音源はシングル限定、さらに関係者のみに配布されただけで販売されていない。その配布が録音された1966年だとして、筒美はそこからどこかの時点で入手し、1974年に発表された主題歌にてこっそり引用したと推理できる。

作者のことを思うなら隠しておくべき話も(わたしはまだ寝かせておきたかった)、京平信者が知ればこれまで以上に信仰心を深めてしまうのだろうか。今回の訃報で著名人があいつぎ哀悼の意を表明している。とうぜんであり、歌謡曲とポップスの架橋となった筒美の仕事は“引用の美学”だけに終始せず、独特の華がある。しかしだからこそ、その“華”の正体をわたしは知りたい。創作と盗作の線引きはどこなのか。パクっても先生と呼ばれるひとと叩かれるひとがいるのはなぜなのか。

朝倉理恵 「あの場所から」 (ソニー)

南沙織、麻丘めぐみのいわゆる“センター分け”路線として後発。二十歳のデビュー盤。キンカ堂屋上の思い出はこのほかに、「けんかをやめて」をひっさげ来店した河合奈保子。絶頂期だけに会場は修羅場と化していた。ブレンダの曲は地元の女性団体絡みで、題は「よく遊び、よく学べ」というところか。筒美はモータウンの日本ライセンス先だったレコード会社の元社員。そういうつながりだったことが予想される。



街のニュース見つけた! 投稿・街トピ!

読者の投稿をおまちしています!

●送り先は…メール(info@minimu.jp)、又はプリントの郵送で。
 〒326-0822 栃木県足利市田中町911-3 渡良瀬通信編集室あて



◀旧車オーナーの集い
 草木ドライブイン
 この後、桐生市内に出発。
 群馬大学工学部キャンパスでの開催は中止になったものの、勝手連が400台近く集結。思い思いに、愛車を走らせた。



◀キタナカモール Vol.0(10/31~11/8)

今年5月3日予定されていた「キタナカモール」が、コロナウイルス感染拡大防止のため、開催が1年先に見送りとなった。そこで、足利ミッドタウン商店会では、この秋イベントとして『キタナカモール』を開催した。北仲界隈5ヶ所にこのまちの写真や展示した「北仲路地裏写真館」。同モールのシンボル(タープテント)のお披露目。また、同モール参加飲食店では期間限定で、フードとドリンクが¥1,000で楽しめる(キタナカセット)の提供も行われた。その他期間中、様々な催しを来場者は楽しんでいた。